

ずっと同級生なんですから

広瀬玲子
熊本県・六四・主婦

私たちは小学校から同級生。前から三列目の席に並んで座っていましたね。中学校では生徒会の会長と副会長でした。高校に入ると、あなたは「社会科学部に入らないか」と私を誘いましたね。ずっと近くにいたのに、二人で話したことがなかったから、本当にびっくりして思わず「いいよ」って言ってしまった。エンゲルスの『空想から科学へ』を読みましたね。でも私には難しくて全然解りませんでした。憶えていますか。そんな私にあなたは、夏休みになると本の要約を十七枚の便せんにびっしり書いて送ってくれました。私、それを今でも持っていますよ。

大学に入ったのは、六十年安保で日本中が揺れていた春でしたね。京都御所の前の大通りを、デモの先頭に立って歩くあなたの顔は輝いていました。私も後ろを歩きました。二十五歳の春、お見合いして結納の日を決める時、あなたが何度も何度も夢の中に現れました。だから私は、九州で働いていたあなたに手紙を書きました。あなたはジェット機で飛んで帰って来てくれましたね。あの頃、飛行機代は高かったから、給料

の半分以上が飛んで行っただんじやないかしら。

結婚して三十八年過ぎました。

最近、二人で昔のことをよく話しますね。あなたは私が憶えていないことをよく話してくれます。小学生の時、毛虫が恐いと泣いていたとか、中学生の時、自転車の籠にピンのリボンをつけていたとか、大学入試の朝、汽車の中で出会ったあなたに、私が「がんばって」と言ったとか……

私、聞いていて体がぼつと熱くなります。そしてそのあたたかさがいつまでも体を包んでくれます。あなたの妻になれて本当によかったと思います。

もうすぐ定年ですね。本当にお疲れ様でした。これからも二人で思い出を紡ぎましょうね。そして同じ年月を生きましょうね。私たち、同級生なんですから。 玲子

*小、中、高校で同級生だった夫と結婚して三十八年。まもなく定年を迎える夫に宛てた恋文です。